

令和6年度 第1回深谷市子ども・子育て会議
議事要旨

日 時：令和6年5月31日（金）午後2時00分～午後3時50分

場 所：深谷市役所 大会議室

出席者：門倉 紗英委員、田中 菜留美委員、萩原 徹也委員、那須 信也委員、押野見 孝道委員、
鈴木 雅美委員、金子 京子委員、神庭 ひろ子委員、榊田 摩琴委員、舟橋 康子委員、奥
富 庸一委員、戸野倉 和美委員
(12名)

欠席者：橋本 亜希委員、山崎 幸子委員、岡田 真彦委員（3名）

＜配布資料＞

- ・令和6年度 第1回深谷市子ども・子育て会議 次第
- ・資料1－1 こども・若者の意見聴取及び関係団体等・事業所調査の実施について
- ・資料1－2 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）
策定のためのこども・若者意識調査 設問（案）
- ・資料1－3 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）
策定のための若者の意見交換会（案）
- ・資料1－4 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）
関係団体等アンケート調査 調査票（案）
- ・資料1－5 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）
事業所アンケート調査 調査票（案）
- ・資料2 子ども・子育て支援に関するアンケート調査 集計報告書
- ・資料2－2 子ども・子育て支援に関するアンケート調査 集計報告書（概要版）
- ・資料3－1 深谷市子どもの生活に関する実態調査集計報告書（速報版）
- ・資料3－2 深谷市子どもの生活に関する実態調査 分析報告書
- ・資料3－3 深谷市子どもの生活に関する実態調査 分析報告書（概要版）
- ・別紙1 子ども・子育て支援事業計画及び子ども・子育て会議について
- ・別紙2 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）の策定について

－ 1. 開会－

司会（大野課長補佐）

－ 2. 会長挨拶－

奥富会長より挨拶

－ 3. 議事－

規定により奥富会長が議長となり議事を進行する

①こども・若者の意見聴取及び関係団体・事業所調査の実施について

(事務局：資料1－1、1－2、1－3、1－4、1－5について説明)

委員：事業所調査票は、今あるすべての教育・保育施設に送るのか。

事務局：おっしゃるとおり市内にある幼稚園、保育園にお送りしたいと考えている。

委員：資料1－5の「問8. 今後、事業の拡大もしくは縮小等の意向はありますか。」について、保育所は認定こども園に移行したいところもあるかもしれないので、そういった項目を入れておくと、どのくらいの保育所が考えているか参考になると思う。

事務局：検討する。

委員：メールで送られてくるのか。

事務局：団体はメールアドレスを把握していないため郵送になるが、教育・保育施設は把握しているのでメールで送る。

委員：「若者による意見交換会」について、市内大学というのは埼工大のことか。また、「こども・若者意識調査」の対象は15歳からだが、「若者による意見交換会」の対象が大学生だけなのは、なぜなのか。

事務局：埼玉工業大学と東都大学に声をかけているところ。広く公募し、色々な年代の方に参加していただくのが一番良いと考えているが、過去こういった呼びかけをした際にはなかなか参加者が集まらなかった。広い意見についてはアンケート調査で把握し、直接意見を聴くのは大学生を対象に行いたいと考えている。

委員：質問項目が結婚や出産、子育てのことだったので、大学生と大学院、高校生では全然考え方が違う。そのへんどうなのかなと思った。

事務局：おっしゃるとおり、大学生だけの意見だけでは不足している部分もあると想定しているが、広くアンケート調査を行うことで全体のバランスを取りたいと考えている。

委員：「若者による意見交換会」のファシリテーターはどなたが行う予定か。

事務局：計画策定については、業務委託をしており、委託業者の株式会社ぎょうせいに手伝っていただく予定。

委員：グループワークの場合は、ファシリテーターの雰囲気によってどんな意見が出やすいか決まってくるので、専門家が行うということで安心した。

委員：「若者による意見交換会」のルール②「(2) SNS などの投稿について」には、写真についてのことしか書かれていないが、動画についてはどうなのか。深読みするつもりはないが、もしかしたらということもある。

事務局：国が行っている「こども若者いけんぷらす」のルールを参考につくったが、動画は音声も混ざってしまうのでNGにしたいと思う。

委員：そのほうが良いと思う。始まったら写真も控えたほうが良い気がする。

委員：関係団体等アンケート調査の、問3-2の「④こどもや子育て家庭に対する理解の変化の背景・要因」の選択肢に「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」とあるが、感染拡大というのは時期が変わっていると思うので、「新型コロナウイルス感染症の影響」のような表現でいいのではないか。

事務局：たしかに現在は感染拡大期ではないので、感染症による影響のほうが適切かと思うので修正したい。

委員：こども・若者意識調査は、二次元コードを読み取って回答するようになっているが、これはスマホで読み取ることをイメージしているのか。

事務局：そのとおり。

委員：回答にはどのくらいかかるのか。最近は「この調査の回答には10分程度かかります。」とか書いてあるが。

事務局：目安としては10分程度と考えている。そういったかたちでアンケートにも記載したいと思う。

会長：議事①について承認いただけるか。（拍手）修正はあるが、こども・若者の意見聴取及び関係団体・事業所調査の実施について承認された。

－ 4. 報告－

①子ども・子育てに関するニーズ調査及び子どもの生活実態調査の結果について

（事務局・ぎょうせい：資料2、2－2、3－1、3－2について説明）

委員：深谷市子どもの生活に関する実態調査【分析報告書】の中央値の算出は国基準でつくっており、県のものでつくるかどうかは検討するということでもいいか。

ぎょうせい：国の国民生活基礎調査で出された中央値を基準として、その2分の1未満かどうかという集計を行った。国、県の同様の調査では、調査結果の中での中央値を基準として行っているのので、深谷市の調査結果の中での中央値を算出して、その2分の1未満かどうか、中央値以上かという3段階に分けて集計していきたいと考えている。

委員：子ども・子育て支援に関するアンケート調査の就学前児童の調査について、利用中の教育・保育事業の満足度を見ると、小規模保育施設は「とても満足している」が77.3%と高い数値になっている。私たちは深谷市から認定を受けて子どもを預かっている小規模保育園だが、この集計のどの施設の位置づけになっているのか。

事務局：小規模保育施設に含まれてくる。

委員：小規模保育園の全体の位置づけは、認可保育園とかの合計にはあがらなかったのかなと感じた。

委員：補足する。私立認可保育所（保育園）の利用は30.5%とあり、小規模保育施設は2.5%とあるが、抜粋の集計表には小規模保育施設が入っていない。小規模保育は数字的には小さいが、利用しているところの0歳から2歳の位置づけなど、反映されていくといくらか数字が変わってくるのでは、ということだと思う。

事務局：概要版は主な施設のみ抜粋して掲載しているが、すべての集計を行っている。資料2の22ページをご覧くださいと、現在利用している教育・保育施設の回答として、小規模保育施設含めすべての集計結果をまとめている。利用したい教育・保育施設については、35・36ページにすべての集計結果を掲載している。

会長：報告①は以上とする。

－ 4. その他－

事務局：次回の会議は、こども・若者の意見聴取及び関係団体・事業所調査の結果について報告するとともに、計画骨子案の検討を行っていただきたい。開催日は8月27日火曜日、場所は深谷公民館大会議室を予定している。

－ 5. 閉会－

副会長：以上をもって、令和6年度第1回深谷市子ども・子育て会議を終了する。

(以上、終了)